

教育上の課題と工夫

【課題】 コロナにより、実習Ⅰは6施設中3施設が受け入れ不可となった。精神障害者を地域生活で支える総合支援法のサービス体系について体験することができない、当事者と触れ合って学ぶことができない等の課題がでた。

【今回の実習の概要】

5日の実習期間を、臨地実習2日、学内実習2日として、学生をローテートした。最終日は通常の実習同様、学内でまとめを行った。

【工夫したこと】

はじめに通常の実習目標を、今回の実習に沿うよう5つの実習到達目標に組み立て直した。臨地実習は通常の実習とほぼ同様のスケジュールであった。学内実習では、実習施設・活動の紹介映像や、支援の工夫・当事者の感想などのインタビューを撮影し、臨地での学びに近づけるようにした。

また、教育教材・ドキュメント番組など映像を多く取り入れて、精神に障害を持つ人の地域生活と支援の仕組みを実感できるよう工夫した。映像の使い方では、課題を与えて映像を視聴させ、グループワーク（GW）で課題に沿ったディスカッションをさせ、結果をジグソー法で他のグループと共有させて、学生ひとりひとりが他のグループに発信できるようにした。

臨地実習では当事者と話し合う機会がつかれないため、対面での交流会を企画した。学生たちに事前に地域生活の映像を見せて、質問を準備してもらって交流会に臨ませた。

【実習の展開】

学内先行の学生：学生は、各施設の映像を視聴しGWで施設の感想を共有。当事者の語りや支援者の工夫のインタビュー映像を視聴し、目的・活用についてGWを行った。2日目の終わりに、臨地で聞きたいこと、見たいことの計画を立てて3・4日目に臨んだ。当事者・支援者との交流会後に、健康な面と支援が必要な面をGWで整理した。

臨地先行の学生：学生は、臨地で活動や支援の様子を観察することから始めた。終了後に各施設の映像を視聴し、自分たちが体験した実習施設はサービス体系のどこに位置づけられるのかを確認し、体験した活動及び支援の場面と映像での支援者や当事者の発言を関連付けてとらえ、施設の目的・活用についてGWを行った。当事者・支援者との交流会後は、臨地実習での体験と合わせて健康な面と支援が必要な面を整理した。

最終日のまとめ：実習施設ごとに、障害者総合支援法によるサービス間の連携についてディスカッションし、精神障害を含めた地域包括ケアシステムについてイメージさせた。

With コロナに向けて

ジグソー法の活用で、個々の学生が協力し合いながら知識を共有し、主体的に意見表出ができ満足感につながっていたことから、ジグソー法を含むアクティブラーニングによる授業方法を継続して取り入れていく。

実習施設の映像を取り入れることで、全学生が総合支援法のサービス体系全体に触れることができた。通常の実習や演習でも実習施設の映像の使用を検討していく。
